

八王子 ぐらしのレポート

(令和3年)
2021
12月

八王子市消費生活啓発推進委員会レポート

特集

ぐらしフェスタ東京2021 八王子会場 講演会

「これだけは知っておきたい！ ひとりでもできるSDGs」

- ・日 時：2021年11月30日（火）14時～16時
- ・会 場：WEBと特設サテライト会場（八王子市消費生活センターロビー）
- ・共 催：東京都消費者月間実行委員会、八王子市
- ・講 師：千葉 潔さん（国際連合広報センター 知識管理担当官）
- ・対談相手：黒部 睦さん（2019年度 少年少女国連大使）
- ・参加者数：56名

コロナ禍のため、“ぐらしフェスタ東京2021 地域会場 八王子会場”の講演会「これだけは知っておきたい！ひとりでもできるSDGs」はWEB形式により開催しました。講師は、国際連合広報センター知識管理担当官で八王子市在住の千葉潔さんにお願ひしました。講演の後半には日本青年会議所・少年少女国連大使としても活躍され、学生時代より八王子と縁の深い黒部睦さんとの対談という設定で進められました。当日は、八王子市内外から56名の方に参加いただくことができました。八王子市消費生活センターに開設した特設サテライトにおいても消費生活啓発推進委員等4名が参加しました。以下は、講演の概要です。



講演中の千葉さん

■一人ひとりにできることについて

2015年に国連でSDGsが採択されてから6年が過ぎ、2030年の最終期限に向けて、2020年からの10年は「行動の10年」といわれています。国連は「今、行動を」と呼び掛けて、地球の人々の行動の加速化を訴えています。

エンターテインメントの世界の方々の力を借りて作成したSDGs啓発ビデオ「トーマスとなかまたち：SDGs-つくる責任 つかう責任（ゴール12）」（リサイクルと再利用について）を紹介します。QRコードを読み取ってください。→



機関車トーマスの動画を皆さんにご覧いただきましたが、そのメッセージはわかりやすく明解でした。トーマスが訴えていたことをちょっと振り返っておきたいと思います。「使うものはできるだけ必要なものだけ手に入れるようにする、要らないものはもらわない、使えるものは何度でも使う、自分にとって必要がなくなったら誰かが使えないか、再利用できないかを考える、壊れたものはできれば直してもう一度使う、直せないものはリサイクルをする、紙は木からできているから再生紙を使えば森が守れる」と言っていました。「ごみを捨てるなら、正しく捨てないといけない」とごみの捨て方についてもアドバイスしていました。

この他に、「ピーターラビットとその仲間たち」は今年6月に公開された映画ですが、その中で、ピーターラビットたちは「地産地消」と「フードロスを出さない」を訴えて、いく

つかの行動を提案していました。その行動とは、「果物や野菜をもっと食べる、地元の旬の食べ物を買う、野菜や果物を育てる、食べ物をむだにしない」ということです。こうしたことも、誰でもやろうと思えばできることです。

市民の一つひとつの行動は小さくても、それが合わされば大きな違いが出ます。市民の意識と日常的な行動がエネルギーシフト（脱炭素）への動きを後押しし、加速化させます。こうして国連がエンターテインメント業界とコラボするなどして「アクティブな行動を」と訴えているのは、このままでは間に合わないという危機意識からです。

2019年9月の国連総会前に、グテーレス国連事務総長が発表した報告書のタイトルは「未来は今」。事務総長は「未来は、今私たちが何をするかで決まる」と述べて私たちに行動をせまりました。私たちには過去にさかのぼって過去を変える能力はありませんが、未来を変える力があります。未来は今の私たちが何をするかで決まるのです。

■SDGsの基本的な事柄について

SDGsの正式な名称は、「Sustainable Development Goals」です。英語のアルファベットSDGsは馴染みのある言葉になってきました。もしかすると日本語訳の「持続可能な開発目標」のほうが8つも漢字が並んでいて、日本語訳でありながら、逆になじむのが難しいかもしれません。それでも、皆さまの行動において、SDGsは、日本語で、「持続可能な開発目標」と言うということは、あらためて、しっかりと意識していただいたほうがよろしいかと思えます。



SDGs17の目標

SDGsはぼんやりした概念ではなく、達成期限がある目標だということが、より明確になると思えます。誰一人取り残さないようにしながらも、先進国、途上国にかかわらず、今までのような開発の形ではなくて、将来の世代のことも考えながら、持続可能な形で環境と開発の均衡を図らなければなりません。それが「持続可能な開発」ということです。世界的に、先進国、途上国間の議論を含め、1970年代から開発か環境かという議論が高まり続いていたところ、両方の折り合いをつけるものとして、1980年代の後半に、国際社会は、その考え方に至りました。そこからさらに、いろいろな議論を重ねながら、「持続可能な開発」という概念は発展的に引き継がれ、2015年9月に、SDGsという形になって姿を現わしました。

■国連広報センターのWEBサイトのページ紹介

リンクを開いて少しスクロールすると、「SDGs」のバナーが見えると思います。このバナーをクリックすると「SDGs」の特集のページに行きます。総務省作成のものや目標・ターゲット・指標も掲載していて、国連がアップしている進捗状況のページにも行くことができます。指標があることで、現在の芳しくない進捗状況がわかり、「このままでは2030年の期限に間に合わない。行動の加速化が必要だ。」



国連広報センターWEBサイト

と叫ばれていることの意味が分かります。そしてウェブサイトには、10の行動を提案する活動や行動ガイドのチラシもあります。いろいろな啓発ビデオも映像のコーナーにあります。

■*マルチステークホルダーの実践

* 国だけでなく市民社会・金融・企業・学術界・メディアなどや、その他のステークホルダー（利害関係者全般のこと）の取り組み

SDGsは、その策定段階において、時間をかけて世界を代表する国々が意見を出し合い、採択されたものです。その協議プロセスには国家以外の多様なステークホルダーも関与しました。更に、国連事務局が主導したグローバルな市民世論調査には約1,000万人の世界の市民が参加をしています。

こうして策定段階から世界の多くの国々と多様なステークホルダーの関与があるからこそ、SDGsの正当性は高く、市民レベルを含めてすそ野が広いと言えます。

■国際連合と国連総会について

国連は1945年10月24日に誕生し、この国連において2015年にSDGsは作られました。

国連には6つの主要機関があります。安全保障理事会、国連総会、経済社会理事会、国際司法裁判所、信託統治理事会、そして事務局です。SDGsはその中の一つ、国連総会で採択をされました。国連総会では193のすべての加盟国が平等に1国1票をもって、グローバルな諸課題を話し合っただけで決議を採択します。国連総会で採択されたからこそ、「SDGsは193の国が決めた」と言えます。

■気候変動の課題

今年、ドイツとベルギーで、中国の河南省、米国のニューヨーク、イタリアのシチリア島などの多くの地域で自然災害が記録されました。日本でも発生している自然災害は、現在、気候危機・気候非常事態とも呼ばれる切迫した課題です。SDGsはその名称に含まれた持続可能な開発という言葉自体が環境への配慮を強くにじませた言葉であり、SDGsにおいて気候変動への取り組みはもっとも重要な課題の一つです。国連でも今、気候変動とコロナからの復興の2つが最優先課題です。

地球の気温上昇を2度以内に、できれば1.5度以内に抑えるという目標は、SDGsの採択後、2015年12月に別途温暖化防止条約の下で成立したパリ協定によって作られたものです。SDGsとパリ協定はセットで考えるべきものです。国連事務総長もコロナからの復興を考える羅針盤はSDGsとパリ協定であるとしてメッセージの発信をしています。

■持続可能な消費行動は創造的な活動から

持続可能な消費行動は創造的な活動だと思います。

自分たちの消費行動がどのゴールにつながるのか、地球規模の課題の壮大なパズルを解くように考えてみていただければと思います。SDGs達成を創造的に考えて寄与する良い方法を見つけたら、SNSで発信してシェアしてください。そこから関わりやパートナーシップが生まれて人生を豊かにできるかもしれません。楽しんでSDGsに取り組んでください。SDGsの目標達成の年は2030年です。

その時私たちはどんな社会を見るのでしょうか？2030年に私たちは持続可能な社会を作り、世界を変えることができているのでしょうか？「未来は私たちが今何をするかで決まる」と国連事務総長は訴えています。過去は変えられなくても未来は変えられます。すべてのものは時空を超えてつながっていくものです。

皆さまの思いが時を超え、未来へとつながっていきますように。

講演に続き、千葉潔さんと黒部睦さんとの対談に移り、黒部さんがSDGsに関わってきている行動や、なぜ関わってきたかを教えていただきました。八王子市の自然や歴史の中で育ち、持続可能な開発に対する思いが育まれたという黒部さんからお話しいただいた概要を以下に掲載します。



WEBで対談中の千葉さんと黒部さん

■今、黒部さんが「若者から若者に伝えたいこと」は…。ズバリ、「意思表示」ということ

「『行動で環境に良い社会にしたい』、『地球を守りたい』ってことを伝えてほしいと思います。例えば、レジ袋を断るとか、認証マークが付いた商品を買うとか、地域で取れた無農薬の野菜を買うといった行動も、『消費者は環境に配慮したものを欲しがっているよ』と、生産者の方へのメッセージになっています。更に、もっと色々やってみたいという方がいたら、スーパーのお客様の声や企業のご意見箱など、そういうところに思いを送るのも、素晴らしいアクションだと思います。ぜひ皆さんで声をあげて社会を変えていけたら素敵だなと思います。声にするのを大事にして欲しいと思います。これは必ずしも言葉でなくても良いのですが、思っていることや叶えたい未来は何らかの行動で伝えていって欲しいと思います。良い政策や良い消費には『いいね』って、改善してほしい商品や企業の取り組みに対しては『ここを直して欲しいよ』ってことを伝えること。伝えないと、社会はあなたの望む方向には進んでいかないと思います。私が何度も百回くらい言うよりも、皆さんと一緒に50回言った方が、そして、たくさんの方が、100人が1回で声をあげる方が絶対に効率が良いので、“一人の100歩よりも100人の一歩”の方が良いので、一緒に行動していただけたらと思います。」とわかりやすく語っていただきました。

<開催予告> 第55回WEB八王子市消費生活フェスティバル

消費生活フェスティバルは、コロナ感染予防対策により、今回も右記のとおりWEB開催とします。今年もたくさんの展示を予定していますので、ご期待ください。*3月から八王子市ホームページに右のバナーを設置する予定です。ぜひクリックしてご参加ください！



<編集後記>

今年の八王子会場講演会は、SDGsの発信元である国連広報担当官の千葉さんから直接お話を聞く機会を得ました。今回WEB講演会に出演いただいた千葉さんも、対談に出演の黒部さんも八王子市に縁があることから地元の話も併せて聞くことができました。こうした方たちが世界のSDGs推進・実現に向けて活躍されていることは地元としてもうれしい限りです。(Sa)

千葉さんと黒部さんには、いっぱいお話いただきました。とても興味深く有意義な内容でしたが、紙面に収まる範囲に圧縮して編集させていただきました。講演会でお聞きした内容を、当日参加したメンバーは胸に深く刻み、次につなげていく心意気です。(Ka)

編集発行：八王子市消費生活センター・同消費生活啓発推進委員会

〒192-0082 八王子市東町5-6 クリエイトホール 地下1階

☎042-631-5456

FAX：042-643-0025

*くらしのレポートにつきご質問・ご意見がありましたら、どうぞお寄せください。